

本市場に 伝わる 鶴の茶屋

語ってくれた人

板倉茂三郎さん(本市場)

板倉さんは、神社仏閣の建築彫刻師としてこの道六十年。今も元気に制作にはげんでいます。号を聖峰といい、市立博物館には役の行者像のすくれた作品が展示されています。

そうさなあ、わしがこの本市場に住んでもう五十年になる。それにしてもずい分と変わったもんだ。今は国道を自動車がひっきりなしに走っているが、わしが若い頃は、荷を運



鶴の茶屋跡の碑

昭和五十七年八月五日号

ぶのに大八車を引いたもんだ。そうそう、鉄道馬車がここを通っていたな。

その頃聞いた昔話なんだが……。

ここ本市場は、東海道五十三次の吉原宿と蒲原宿の合いの宿だった。甘酒やうなぎの蒲焼が名物だったそうで、茶屋は結構繁盛しておったということだ。

その茶屋に座って富士山の中腹を望むと、林の間に芝生が見えて、夏は青く、冬は白雪に輝き、その形は一つの鶴が舞っているようで、一つは亀が泳ぐように見えたので、鶴芝亀芝といつて、旅行く人は非常に珍しがったということだ。

そうしたことから、誰いうことなく、この茶屋を「鶴の茶屋」というようになったそうだ。

ま、今ではそうした話を知っている人も少なくなつてしまつたような感じで、どうもめまぐるしい時代になつたもんだなあ……。

